

〔I〕

(1)

判別式の値を求める。

$$\begin{aligned} D &= (k+1)^2 - 4k^2 \\ &= -3k^2 + 2k + 1 \\ &= -(3k+1)(k-1) \end{aligned}$$

となる。従って、 k の範囲は

$$\begin{aligned} D &> 0 \\ \Leftrightarrow (3k+1)(k-1) &< 0 \\ \Leftrightarrow -\frac{1}{3} &< k < 1 \end{aligned}$$

と求まる。

$$\text{(答)} \quad -\frac{1}{3} < k < 1$$

(2)

$a+i$ と共役な複素数 $a-i$ も解にもつので、解と係数の関係より、

$$\begin{aligned} \begin{cases} (a+i) + (a-i) = k+1 \\ (a+i)(a-i) = k^2 \end{cases} \\ \Leftrightarrow \begin{cases} 2a = k+1 \\ a^2 + 1 = k^2 \end{cases} \\ \Leftrightarrow \begin{cases} k = 2a-1 \\ a^2 + 1 = k^2 \end{cases} \end{aligned}$$

となる。 $a^2+1=k^2$ に $k=2a-1$ を代入し、

$$\begin{aligned} a^2 + 1 &= (2a-1)^2 \\ \Leftrightarrow 3a^2 - 4a &= 0 \\ \Leftrightarrow a &= 0, \frac{4}{3} \end{aligned}$$

となる。 a の値を $k=2a-1$ に代入し、 $a=0$ のとき $k=-1$ 、 $a=\frac{4}{3}$ のとき $k=\frac{5}{3}$ となる。

$$\text{(答)} \quad a=0 \text{ のとき } k=-1, \quad a=\frac{4}{3} \text{ のとき } k=\frac{5}{3}$$

(3)

共通解を t とすると、

$$\begin{aligned} t^2 - (k+1)t + k^2 &= 0 && \dots \text{①} \\ t^2 - (k-1)t + k^2 - k &= 0 && \dots \text{②} \end{aligned}$$

の2式が成り立つ。①-②より、

$$-2t + k = 0 \Leftrightarrow k = 2t \quad \dots \text{③}$$

となる。これを①に代入して、

$$\begin{aligned} t^2 - (2t+1)t + (2t)^2 &= 0 \\ \Leftrightarrow 3t^2 - t &= 0 \\ \Leftrightarrow t &= 0, \frac{1}{3} \end{aligned}$$

となる。 t の値を③に代入して、 $t=0$ のとき $k=0$ 、 $t=\frac{1}{3}$ のとき $k=\frac{2}{3}$ となる。

$$\text{(答)} \quad k=0 \text{ で共通解が } 0, \text{ または } k=\frac{2}{3} \text{ で共通解が } \frac{1}{3}$$

〔Ⅱ〕

(1)

それぞれの人を A, B とする。A が 1 段上がる確率は, A がグーを, B がチョキを出す確率なので,

$$\frac{1}{3} \cdot \frac{1}{3} = \frac{1}{9}$$

となる。同様に, A が 2 段上がる確率, A が 3 段上がる確率, B が 1 段上がる確率, B が 2 段上がる確率, B が 3 段上がる確率, とともに $\frac{1}{9}$ と求まる。

じゃんけんを 2 回行う時点でともに 2 段目以上にいるには, どちらも 1 回ずつ勝ち, かつその際に 2 段以上上がらないといけない。A が 2 段以上上がる確率は, 2 段もしくは 3 段上がる確率なので

$$\frac{1}{9} + \frac{1}{9} = \frac{2}{9}$$

と求まる。A が先に勝つケースと B が先に勝つケースの 2 通りがあるので, 求める確率は

$$\frac{2}{9} \cdot \frac{2}{9} \cdot 2 = \frac{8}{81}$$

と求まる。

(答) $\frac{8}{81}$

(2)

条件を満たすのは, 次の 3 つの場合である。

[1] A がパーで, B がグーとチョキで勝つ場合

それぞれの確率が $\frac{1}{9}$ であり, A がパーで勝つケース, B がグーで勝つケース, B がチョキ

で勝つケースの 3 つの並べ替え方が 3! 通りあるので, 求める確率は

$$\frac{1}{9} \cdot \frac{1}{9} \cdot \frac{1}{9} \cdot 3! = \frac{2}{243}$$

である。

[2] A がグーとチョキで, B がパーで勝つ場合

対称性より [1] 同様 $\frac{2}{243}$ である。

[3] A, B ともにパーで 1 回ずつ勝ち, あとの 1 回はあいこの場合

あいこの確率が $\frac{1}{3}$ であることから

$$\frac{1}{9} \cdot \frac{1}{9} \cdot \frac{1}{3} \cdot 3! = \frac{2}{81}$$

となる。

以上 [1], [2], [3] より, 求める確率は,

$$\frac{2}{243} + \frac{2}{243} + \frac{2}{81} = \frac{10}{243}$$

となる。

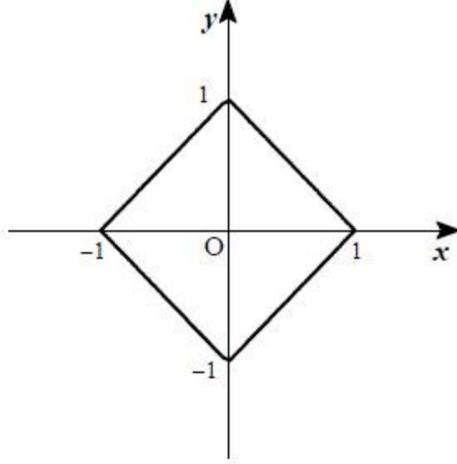
(答) $\frac{10}{243}$

〔法学部Ⅲ〕 および 〔文学部Ⅲ〕

(1)

$x \geq 0$ かつ $y \geq 0$ のとき、 $x+y-1=0$ より $y=-x+1$
 $x \geq 0$ かつ $y < 0$ のとき、 $x-y-1=0$ より $y=x-1$
 $x < 0$ かつ $y \geq 0$ のとき、 $-x+y-1=0$ より $y=x+1$
 $x < 0$ かつ $y < 0$ のとき、 $-x-y-1=0$ より $y=-x-1$

である。よって以下の通りとなる。

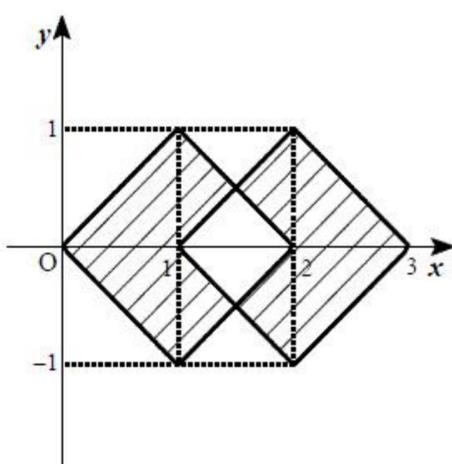


(答) 前図

(2)

与式を満たすには、 $|x-1|+|y|-1$ と $|x-2|+|y|-1$ の一方が0以上、もう一方が0以下となればよい。

$|x-1|+|y|-1=0$ と $|x-2|+|y|-1=0$ は、 $|x|+|y|-1=0$ をそれぞれx軸正方向に1,2動かしたものである。 $|x-1|+|y|-1=0$ の内側で $|x-1|+|y|-1$ が0以下、外側で0以上となる($|x-2|+|y|-1$ についても同様)なので、2つの図形の内側、他方の外側となる以下の領域が答えとなる(境界含む)。



(答) 前図

(3)

$|x-a|+|y|-1=0$ と $|x-2|+|y|-1=0$ は $|x|+|y|-1=0$ をx軸正方向に $a, 2$ 動かしたものであるため、対角線の長さが2の正方形であり、内部の面積はいずれも

$$2 \cdot 2 \cdot \frac{1}{2} = 2$$

となる。 $0 < a < 2$ のとき、2つの図形は重なり、重複部分是对角線の長さ a の正方形となる。

(2)同様、一方のみの正方形の内部に入っている部分の面積を求める。 $|x-a|+|y|-1=0$ の内部で $|x-2|+|y|-1=0$ の外部となる部分の面積は

$$\left(2 - a \cdot a \cdot \frac{1}{2}\right) = 2 - \frac{a^2}{2}$$

で、 $|x-a|+|y|-1=0$ の外部で $|x-2|+|y|-1=0$ の内部となる部分の面積も同じなので、求める面積は

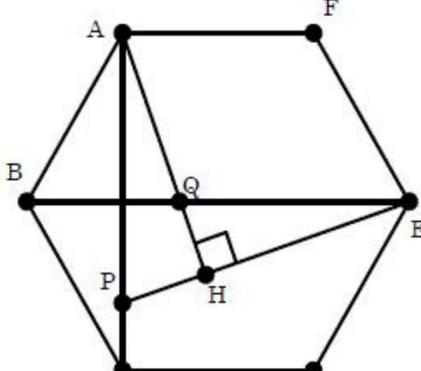
$$\left(2 - \frac{a^2}{2}\right) \cdot 2 = 4 - a^2$$

となる。

(答) $4 - a^2$

〔経営学部Ⅲ〕

(1)



正六角形の性質より、

$$\begin{aligned} \overline{BC} &= \frac{1}{2} \overline{AD} \\ &= \overline{AB} + \overline{AF} \end{aligned}$$

なので、

$$\begin{aligned} \overline{AP} &= \frac{4}{5} \overline{AC} \\ &= \frac{4}{5} (\overline{AB} + \overline{BC}) \\ &= \frac{4}{5} (2\overline{AB} + \overline{AF}) \\ &= \frac{8}{5} \overline{AB} + \frac{4}{5} \overline{AF} \end{aligned}$$

となる。

(答) $\frac{8}{5} \overline{AB} + \frac{4}{5} \overline{AF}$

(2)

点Qは直線BE上にあるので、

$$\overline{AQ} = \overline{AB} + t \overline{AF}$$

とおける。また、

$$\overline{AQ} \cdot \overline{PE} = 0$$

となる。また、 $\angle FAB = 120^\circ$ なので $\overline{AB} \cdot \overline{AF} = -\frac{1}{2}$ である。したがって、

$$\begin{aligned} \overline{AQ} \cdot \overline{PE} &= 0 \\ \Leftrightarrow (\overline{AB} + t \overline{AF}) \cdot (\overline{PA} + \overline{AF} + \overline{FE}) &= 0 \\ \Leftrightarrow (\overline{AB} + t \overline{AF}) \cdot \left(-\frac{3}{5} \overline{AB} + \frac{6}{5} \overline{AF}\right) &= 0 \\ \Leftrightarrow -\frac{3}{5} |\overline{AB}|^2 + \frac{6}{5} t |\overline{AF}|^2 + \left(\frac{6}{5} - \frac{3}{5} t\right) \overline{AB} \cdot \overline{AF} &= 0 \\ \Leftrightarrow \left(-\frac{3}{5} + \frac{6}{5} t - \frac{1}{2} \left(\frac{6}{5} - \frac{3}{5} t\right)\right) |\overline{AB}|^2 &= 0 \\ \Leftrightarrow -6 + 12t - 6 + 3t &= 0 \\ \Leftrightarrow t &= \frac{4}{5} \end{aligned}$$

となる。よって $\overline{AQ} = \overline{AB} + \frac{4}{5} \overline{AF}$ となる。

(答) $\overline{AB} + \frac{4}{5} \overline{AF}$

(3)

定数 k, s を用いて

$$\begin{aligned} \overline{AH} &= k \overline{AQ} \\ &= k \left(\overline{AB} + \frac{4}{5} \overline{AF}\right) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \overline{AH} &= \overline{AP} + s \overline{PE} \\ &= \frac{8}{5} \overline{AB} + \frac{4}{5} \overline{AF} + s \left(-\frac{3}{5} \overline{AB} + \frac{6}{5} \overline{AF}\right) \\ &= \left(\frac{8}{5} - \frac{3}{5} s\right) \overline{AB} + \left(\frac{4}{5} + \frac{6}{5} s\right) \overline{AF} \end{aligned}$$

と表せる。 \overline{AB} と \overline{AF} は一次独立なので、2式より

$$k = \frac{8}{5} - \frac{3}{5} s$$

$$\frac{4}{5} k = \frac{4}{5} + \frac{6}{5} s$$

が成り立つ。この連立方程式を解き、 $k = \frac{10}{7}, s = \frac{2}{7}$ となる。

よって

$$\begin{aligned} \overline{AH} &= \frac{10}{7} \left(\overline{AB} + \frac{4}{5} \overline{AF}\right) \\ &= \frac{10}{7} \overline{AB} + \frac{8}{7} \overline{AF} \end{aligned}$$

となる。

(答) $\frac{10}{7} \overline{AB} + \frac{8}{7} \overline{AF}$